

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

APPARATUS
Filed: June 29, 2001
Darryl Mexic
2 of 3

(202) 293-7060

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

PRO
09/09/01
06/29/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2000年 6月30日

願番号
Application Number:

特願2000-199749

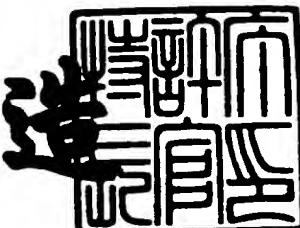
願人
Applicant(s):

濱谷工業株式会社

2001年 4月13日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



Best Available Copy

出証番号 出証特2001-3030766

【書類名】 特許願

【整理番号】 FC018

【提出日】 平成12年 6月30日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B05B 7/02

B08B 3/02

【発明者】

【住所又は居所】 石川県金沢市大豆田本町甲 58番地 潤谷工業株式会社
内

【氏名】 原 真一

【特許出願人】

【識別番号】 000253019

【氏名又は名称】 潤谷工業株式会社

【代表者】 潤谷 弘利

【代理人】

【識別番号】 100098947

【弁理士】

【氏名又は名称】 福島 英一

【電話番号】 03-3373-3261

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 033455

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9815382

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 洗浄ノズル

【特許請求の範囲】

【請求項1】 噴射ノズル部の最小径部の手前に多段階の傾斜部からなるラッパ部を形成し、その傾斜部に沿わせてラッパ部の途中に開口するように気体噴射口を形成するとともに、該気体噴射口と前記最小径部との間に噴射ノズル部の軸線に対する傾斜角が前記気体噴射口の噴射角より小さい傾斜部を介在させ、かつ気体噴射口の内方に洗浄液の噴射口を形成して、それらの噴射口を介して気体を洗浄液より高速で噴射することにより、前記洗浄液の液滴化を促進しながら加速するように構成したことを特徴とする洗浄ノズル。

【請求項2】 噴射ノズル部の最小径部の手前に曲面からなるラッパ部を形成し、その曲面に沿わせてラッパ部の途中に開口するように気体噴射口を形成するとともに、その気体噴射口の内方に洗浄液の噴射口を形成し、それらの噴射口を介して気体を洗浄液より高速で噴射することにより、前記洗浄液の液滴化を促進しながら加速するように構成したことを特徴とする洗浄ノズル。

【請求項3】 前記気体噴射口の中央部を通過する気体の噴射線が前記最小径部より上流側で集束するように構成した請求項1又は2に記載の洗浄ノズル。

【請求項4】 前記気体噴射口の軸線方向の断面積を開口部へ向けて徐々に縮小して気体を加速するように構成した請求項1～3のいずれか一項に記載の洗浄ノズル。

【請求項5】 前記気体噴射口の開口部における気体通路断面積と前記最小径部の断面積が略等しいか又は最小径部の断面積が若干大きくなるように設定した請求項1～4のいずれか一項に記載の洗浄ノズル。

【請求項6】 前記気体噴射口の開口部における気体通路断面積と前記最小径部の断面積との比を1：1～1.3とした請求項1～5のいずれか一項に記載の洗浄ノズル。

【請求項7】 前記洗浄液の噴射口から前記噴射ノズル部の先端部までの長さを前記最小径部の直径の10～50倍とした請求項1～6のいずれか一項に記載の洗浄ノズル。

【請求項8】 前記気体噴射口の上流側に粉粒体を供給可能に構成した請求項1～7のいずれか一項に記載の洗浄ノズル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車や、ビルの壁面、壇、食器等の種々の洗浄に広く適用可能な洗浄ノズルに関し、より詳しくは、気体と洗浄液の混合作用及び加速作用向上して、洗浄液からなる液滴を含む気液混合流の均一性を図るとともに、液滴をより高速で噴射し得るように改良した洗浄ノズルに関する。

【0002】

【従来の技術】

この種の気液混合流を噴射する洗浄ノズルとしては、液体噴射口を囲繞するように気体噴射口側を外側に設けたタイプと、逆に気体噴射口を囲繞するように液体噴射口側を外側に設けたタイプが知られている。本発明は、前者の気体噴射口側を外側に設けたタイプの改良に関する。ところで、気液混合流による洗浄作用を採用する洗浄ノズルにおいては、その洗浄ノズルから噴射される気液混合流の状態及び噴射速度が重要である。すなわち、液滴の噴射速度が大きいほど、液滴が被洗浄面に衝突した際の物理的作用が大きく、良好な洗浄作用が得られる。また、気液の混合状態がよく、液滴の均一性が良好であれば、より安定的な洗浄作用が得られる。因みに、ノズルの最小径部の手前にラッパ部を形成して、そのラッパ部において通路断面積を徐々に絞りながら、気体と液体の混合作用を促進すると同時に加速する技術手段が開示されている（特開昭60-261566号公報、特開平10-156229号公報）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記従来技術においては、ノズルの最小径部の手前に形成したラッパ部において通路断面積を単純に絞るだけであったことから、気体と液体の混合作用や液滴の加速作用にも限界があり改善の余地があった。本発明は、このような従来の技術的事情に鑑みて開発したものであり、圧力気体を用いて気体流

の有するエネルギーを効率よく液滴に移乗させることにより、前記ラッパ部における気体と洗浄液の混合作用を更に促進し、そのラッパ部で得られる気液混合流を構成する液滴の均一性を改善するとともに、その液滴をラッパ部の後方の流通路において更に混合加速することにより混合状態の良好な高速の液滴流からなる強力な洗浄用噴流が得られる洗浄ノズルを提供し、洗浄作用を向上することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、請求項1の本発明では、噴射ノズル部の最小径部の手前に多段階の傾斜部からなるラッパ部を形成し、その傾斜部に沿わせてラッパ部の途中に開口するように気体噴射口を形成するとともに、該気体噴射口と前記最小径部との間に噴射ノズル部の軸線に対する傾斜角が前記気体噴射口の噴射角より小さい傾斜部を介在させ、かつ気体噴射口の内方に洗浄液の噴射口を形成して、それらの噴射口を介して気体を洗浄液より高速で噴射することにより、前記洗浄液の液滴化を促進しながら加速するという技術手段を採用した。

【0005】

図1は前記請求項1の発明の特徴を示した要部構成図である。図示のように、本発明では、噴射ノズル部1の最小径部2の手前に形成するラッパ部を多段階の傾斜部3、4から構成し、かつその傾斜部3に沿わせて形成した気体噴射口5と最小径部2との間に傾斜角の小さい傾斜部4を介在させたことにより、最小径部2の手前の気液混合空間が拡大される。これにより、液流状態で噴射された洗浄液の液滴化が促進されるとともに、ラッパ部で加速される気体流によって液滴が加速される。また、最小径部2がその傾斜部4が介在しなかった場合の最小径部2'の位置より相対的に下流側へしだけ移動し、その結果、気体噴射口5から噴射する気体の噴射線6の集束する焦点7は、前記最小径部2に対して相対的に上流側へ移動する。したがって、気体噴射口5から噴射される気体とその内方に設置された洗浄液噴射部8の噴射口9から噴射される洗浄液とが気液混合する部位が相対的に最小径部2の上流側に移動することから、最小径部2の手前における気液混合作用が促進される。したがって、本発明によれば、前記気液混合作用に

よって均一的に分布された液滴の高速噴流が得られるので、安定性が良好で、かつ強力な洗浄作用が得られる。なお、以上のようにして、ラッパ部で得られた混合状態の良好な気液混合流が最小径部2を経て下流側の噴射通路を流下する際にも更に混合作用と加速作用が付加されることはいうまでもない。

【0006】

請求項2の発明では、前記ラッパ部を曲面から形成して、その曲面に沿わせてラッパ部の途中に開口するように気体噴射口を形成するとともに、その気体噴射口の内方に洗浄液の噴射口を形成し、それらの噴射口を介して気体を洗浄液より高速で噴射することにより、前記洗浄液の液滴化を促進しながら加速するという技術手段を採用した。本発明においても、気体噴射口と最小径部との間に位置する曲面の各点の接線は徐々に緩やかな傾斜角に変化するので、前記発明の場合と同様に、気体噴射口から噴射した気体の噴射線が集束する焦点が最小径部に対して相対的に上流側に移動するとともに混合空間が拡大されることから、ラッパ部における気液混合作用が更に促進され、洗浄液からなる液滴の均一性が改善されて、強力で安定性の良好な洗浄作用が得られる。

【0007】

さらに、前記気体噴射口の中央部を通過する気体の噴射線6が前記最小径部2より上流側で集束するように構成して、気液混合流が最小径部の手前で集束するようすれば、気液の混合作用を更に改善できる（請求項3）。前記気体噴射口の軸線方向の断面積を開口部へ向けて徐々に縮小することにより、気体の噴射速度を更に加速することが可能である（請求項4）。また、前記気体噴射口の開口部における気体通路断面積と前記最小径部の断面積が略等しいか又は最小径部の断面積が若干大きくなるように設定すれば、流通路の全体を通じて流速の低下が抑えられ、高速で安定した気液混合流が得られる（請求項5）。例えば、前記気体噴射口の開口部における気体通路断面積と前記最小径部の断面積との比を1:1～1.3に設定することができる（請求項6）。また、前記洗浄液の噴射口から前記噴射ノズル部の先端部までの長さを前記最小径部の直径の10～50倍に設定すれば、噴射ノズル部内において充分な混合作用及び加速作用が得られ、混合状態の良好な高速の液滴噴流が得られる。さらに、前記気体噴射口の上流側に

粉粒体を供給するように構成してもよい（請求項8）。

【0008】

【発明の実施の形態】

本発明に係る洗浄ノズルは、自動車、ビルの壁面、塀、食器等の種々の洗浄に広く適用することができる。前記気体としては、大気を圧縮した圧力エアのほか、加熱した高温気体や蒸気などの高温高圧気体を使用することも可能である。また、前記洗浄液としては、水道水などの水や、必要に応じて界面活性剤などの添加剤を加えて洗浄力や殺菌力等を向上させた適宜の液体の使用が可能である。洗浄液の圧力は、水道水程度の圧力でもよいが、高圧ポンプ等で適度に加圧するとより強力な洗浄作用を得られる。さらに、前記気体噴射口の上流側に炭酸水素ナトリウムやアルミナ等の研掃材などからなる適宜の粉粒体を混入することも可能である。なお、洗浄ノズルから噴射される気液混合流の形態は、その噴射ノズルの各部の具体的な寸法や前記気体及び洗浄液の導入条件により調整することができる。その主な形態は、多量の圧力気体を主体として適量の液体を加えるという形態であり、気液混合により形成される液滴の大きさに関しては、洗浄液の噴射量等を加減することにより、細かい霧状のものから大粒のものまで洗浄形態に応じて設定することが可能である。前記気体噴射口は、以下の実施例のようにリング状の間隙からなる形態のほか、複数の孔部をリング状に列設してなる形態也可能である。また、洗浄液の噴射口に関しても、以下の実施例のように1個の孔部からなる形態のほか、複数の孔部を形成してなる形態也可能である。

【0009】

前記ラッパ部の形状に関しては、多段階の中の適宜の傾斜部に沿わせてラッパ部の途中に開口するように気体噴射口を形成するとともに、その気体噴射口と前記最小径部との間に噴射ノズル部の軸線に対する傾斜角が前記気体噴射口の噴射角より小さい傾斜部、すなわち傾斜角が気体噴射口の噴射角より緩やかな傾斜部を介在させることができが可能な形態であれば、2段以上の適宜の段階数からなるラッパ部の採用が可能である。また、前記ラッパ部を曲面から構成することも可能である。なお、噴射ノズル部の前記最小径部より後方の気液混合流の流通路の形状に関しては、内径が一定の直管状のものでもよいし、下流側の内径が徐々に拡大

あるいは縮小するテーパ状のものでもよい。特に、下流側の内径が徐々に拡大する末広がり状のテーパからなる中細状のノズルを採用した場合には、いわゆるラバール管のテーパ部における增速現象を活用して噴射ノズル部からの気液混合流の噴射速度を音速ないし超音速に上昇させることも可能である。因みに、中細状のノズル部の最小径部の直径は、6～16mm程度が実用的である。また、洗浄液の噴射口から噴射ノズル部の先端部までの長さは、前記最小径部の直径の10～50倍程度が適当である。また、その最小径部の後方に形成するテーパの傾きに関しては、1～2度程度でも十分であり、高速で良好な噴射状態が得られる。なお、その傾きを8度程度以下に設定すれば、気体混合流の流れの過程で生じやすい境界層の剥離現象を回避することができる。なお、ラッパ部や噴射ノズル部の流通路の断面形状は、円形のものに限られず、偏平状のものも可能である。また、前記気体噴射口を形成するラッパ部の内面ないし洗浄液噴射部の外面の形状は、複数段階の傾斜面から形成したものでも曲面状のものでもよい。また、前記最小径部より後方の気液混合流の流通路は、テーパ状のものと直管状のものを組合させて形成する形態も可能である。

【0010】

【実施例】

以下、図面に基づいて本発明の実施例について説明する。図2は本発明に関する適用例を概略的に示した回路構成図である。図中、10は本発明に係る洗浄ノズルで、この洗浄ノズル10の内方には圧力気体の流通路11が形成され、その導入部はコンプレッサ12等からなる圧力気体供給手段に接続されている。また、流通路11の内方には周囲に気体流通用の間隙を形成した状態に洗浄液供給部13が配設され、その導入部は洗浄液タンク14及びポンプ15に接続されている。さらに、本実施例では、コンプレッサ12の下流側に粉粒体の貯留タンク16及びスクリュコンベヤ等の送出し装置17からなる粉粒体供給手段が接続され、その下流側に流通路内に付着した粉粒体を洗い流すための付着防止用の水タンク18及びポンプ19がバルブ20を介して接続されている。なお、それらの粉粒体供給手段や粉粒体の付着防止用の液体供給手段は場合に応じて省略可能である。

【0011】

次に、前記洗浄ノズル10に関して詳細に説明する。図3は本発明の実施例に係る洗浄ノズル10を示した縦断面図であり、図4はその要部を拡大して示した部分拡大断面図である。図示のように、本実施例における洗浄ノズル10は、円筒状に形成された筒状本体部21と、その筒状本体部21の内部に設置された前記洗浄液供給部13と、筒状本体部21の上流側に螺合結合された气体導入部22と、筒状本体部21の下流側に螺合結合された噴射ノズル部23から構成されている。また、噴射ノズル部23は、本実施例では、ラッパ部を一体的に形成した第1ノズル部材24と、流通路が末広がりのテーパ状に形成された第2ノズル部材25を接続して長尺の噴射ノズル部に形成されている。なお、第1ノズル部材24は、傾斜部として後方へ向けて徐々に縮径された3段階からなるテーパ部26～28が形成されており、その最前のテーパ部26と前記洗浄液供給部13の噴射部29の外面に形成されたテーパ部30との間に形成される气体噴射口31からの气体の噴射線が流通路32の最小径部33より上流側で集束するように構成されている。また、本実施例では、テーパ部26と30との間隙をそれらの傾斜角の差によって開口部へ向けて徐々に縮小し、气体噴射口31の軸線方向の断面積を徐々に縮小することにより、气体噴射口31内を通過する圧力气体を更に加速するように構成している。なお、粉粒体を供給する場合には、粉粒体は、气体噴射口31内で气体と共に加速されるとともに、開口部から噴射後も液滴と同様に更に加速される。

【0012】

図示のように、洗浄液供給部13の内部には、洗浄液の貯留空間34及び流通路35が形成されており、その先端部には図4に示したように洗浄液噴射口36が形成されている。また、洗浄液供給部13の外周部と筒状本体部21の内周部との間には、气体の流通路11を構成する間隙部37が形成されており、この間隙部37を介して圧力气体が前記气体噴射口31へ供給するように構成されている。図中、38はガイド面、39は洗浄液導入部である。本実施例では、前述のように、ラッパ部を後方へ向けて徐々に縮径された3段階からなるテーパ部26～28から形成するとともに、その最前のテーパ部26と洗浄液供給部13の噴

射部29の外面に形成されたテーパ部30との間に形成される気体噴射口31からの気体の噴射線が流通路32の最小径部33より上流側で集束するように構成し、しかも気体噴射口31の軸線方向の断面積を徐々に縮小するように構成したので、ラッパ部における液滴の形成及び加速作用がきわめて良好である。すなわち、先ず、気体噴射口31の軸線方向の断面積を徐々に縮小するように構成したので、気体噴射口31内において圧力気体が加速されるので、高速の気体流がラッパ部に噴射される。しかも、ラッパ部は3段階からなるテーパ部26～28から形成され、最小径部33の手前に徐々に絞られた広い混合空間が形成されるので、前記気体流と洗浄液噴射口36からの洗浄液とがよく混合され、均一性の良好な液滴が形成されると同時に加速される。さらに、気体噴射口31からの気体の噴射線が最小径部33より上流側で集束するように構成したので、その最小径部33の手前でよく混合された均一性の良好な液滴が形成され、その上で、最小径部33の後方の第1ノズル部材24及び第2ノズル部材25に連続的に形成された末広がり状のテーパ部40を通過する際に、中細ノズルとしての増速作用を受けてきわめて強力で均一性の良好な液滴噴流が形成される。なお、気体噴射口31の下流側の開口部における気体通路断面積と最小径部33の断面積との比を1:1～1.3に設定すれば、流通路の全体を通じて通路面積の差による流速の低下が抑えられ、高速で安定した液滴流が得られる。

【0013】

図5は本発明の他の実施例を示した縦断面図であり、図6はその要部を拡大して示した部分拡大断面図である。図示のように、本実施例に係る洗浄ノズル41は、前記洗浄ノズル10ではラッパ部を3段階のテーパ部26～28から形成したのに対して、2段階のテーパ部42、43を用いてラッパ部を形成したものである。また、前記洗浄ノズル10の噴射ノズル部23は二部材から構成したのに対して、本実施例に係る洗浄ノズル41の噴射ノズル部44では一部材から構成している。前記テーパ部42と洗浄液噴射部45のテーパ部46との間に形成される気体噴射口47は、洗浄ノズル10と同様に、開口部に向けて軸線方向の断面積を徐々に縮小するように構成されている。また、気体噴射口47からの気体の噴射線は、流通路48の最小径部49の近傍で集束するように構成されている

。本実施例の場合にも、加圧気体は気体噴射口47において加速され、最小径部49の手前に形成される広い混合空間で、洗浄液噴射部45からの洗浄液とがよく混合され、均一性の良好な液滴が形成されると同時に加速される。さらに、前記最小径部49の近傍でよく混合された均一性の良好な液滴を形成した上、その最小径部49の後方に形成された末広がり状のテーパ部50を通過する際に、中細ノズルとしての增速作用を受けて強力で均一性の良好な液滴噴流が形成されることになる。

【0014】

図7は図5の実施例の変形例を示した縦断面図である。本実施例に係る洗浄ノズル51は、噴射ノズル部52の最小径部53の後方の流通路54を、末広がり状の前記テーパ部50に替えて、内径が一定の直管状部55によって形成したものである。本実施例に係る洗浄ノズル51も、最小径部53の手前のラッパ部において、前記実施例と同様の気液混合作用が得られ、均一性の良好な液滴の形成が可能である。

【0015】

図8は本発明の他の実施例の要部を示した部分縦断面図である。本実施例に係る洗浄ノズル56は、噴射ノズル部57のラッパ部が2段階のテーパ部58, 59から構成され、その下流側に位置する最小径部60を所定の長さを有する直管状に形成するとともに、さらにその下流側にテーパ部61からなる流通路を形成したものである。本実施例では、噴射ノズル部57のテーパ部58と洗浄液噴射部62の外面に形成されたテーパ部63との間に形成される気体噴射口64から噴射される気体の噴射線が、前記最小径部60より上流側で集束するように構成されており、前述のように良好な気液混合作用が得られる。

【0016】

図9は図8の実施例の変形例を示した部分縦断面図である。本実施例に係る洗浄ノズル65は、前記テーパ部61に替えて、噴射ノズル部66の最小径部67の後方を同一径の直管状部68としたもので、前記実施例と同様の気液混合作用が得られる。

【0017】

図10は本発明の他の実施例を示した縦断面図であり、図11はその要部を拡大して示した部分拡大断面図である。図示のように、本実施例に係る洗浄ノズル69は、噴射ノズル部70の上流側端部のラッパ部を曲面部71から構成し、その下流側端部に最小径部72を形成するとともに、さらにその後方に末広がり状のテーパ部73からなる流通路を形成したものである。すなわち、本実施例は、噴射ノズル部70のラッパ部として曲面部71を採用し、洗浄液噴射部74の外面に形成されたテーパ部75、76との間に気体噴射口77を形成したものである。そして、その気体噴射口77と最小径部72との間に位置する曲面部71は、最小径部72に向けて各点の接線の傾斜角が徐々に緩い方向に変化するので、図1で説明した多段階の傾斜部の場合と同様に、気体噴射口77から噴射される気体の噴射線が集束する焦点が最小径部72に対して相対的に上流側に移動するとともに混合空間が拡大される。その結果、ラッパ部における気液混合作用が促進され、洗浄液からなる液滴の均一性が改善され、高速で安定性の良好な液滴噴流が得られることになる。なお、洗浄液噴射部74の外面形状に関しても、テーパ部75、76に替えて曲面状を採用してもよい。

【0018】

図12は図10の実施例の変形例を示した縦断面図である。本実施例に係る洗浄ノズル78は、噴射ノズル部79の最小径部80の後方の流通路を、前記テーパ部73に替えて、内径が一定の直管状部81によって形成したもので、前記実施例と同様の気液混合作用が得られる。

【0019】

【発明の効果】

本発明によれば、次の効果を得ることができる。

(1) 噴射ノズルの最小径部の手前に形成したラッパ部を構成する傾斜部に沿わせて形成した気体噴射口と最小径部との間に傾斜角の小さい傾斜部を介在させたので、気体噴射口から噴射する気体の噴射線が集束する焦点が最小径部に対して相対的に上流側に移動するとともに混合空間が拡大されることから、ラッパ部における気液混合作用が促進される。したがって、均一性の良好な高速の液滴噴流を洗浄媒体として使用できるので、安定した強力な洗浄作用が得られる。

(2) 前記ラッパ部を曲面から形成した場合にも、気体噴射口と最小径部との間に位置する曲面の各点の接線が徐々に緩やかな傾斜に変化するので、気体噴射口から噴射した気体とその内方の噴射口から噴射した洗浄液との気液混合流が集束する焦点が最小径部に対して相対的に上流側に移動するとともに混合空間が拡大されることから、ラッパ部における気液混合作用が促進され、洗浄液からなる液滴の分布の均一性が改善され、安定した強力な洗浄作用が得られる。

(3) 前記気体噴射口の中央部を通過する気体の噴射線が前記最小径部より上流側で集束するように構成して、気液混合流が最小径部の手前で集束するようすれば、ラッパ部における気液混合作用を更に向上することができ、液滴を均一性の良好な状態において最小径部の後方の流通路に送ることができるので、その後方の流通路内における混合作用と相俟って均一性のきわめて良好な安定した液滴噴流が得られる。

(4) 前記気体噴射口の軸線方向の断面積を開口部へ向けて徐々に縮小するようになれば、前記ラッパ部の途中に噴射される際の気体の流速を高めて、気液の混合作用を更に促進できる。

(5) 前記気体噴射口の開口部における気体通路断面積と前記最小径部の断面積が略等しいか又は最小径部の断面積が若干大きくなるように、それらの断面積の比を例えば $1 : 1 \sim 1.3$ に設定すれば、流通路の全体を通じて流速の低下が抑えられ、高速で安定した気液混合流が得られる。

(6) 前記洗浄液の噴射口から前記噴射ノズル部の先端部までの長さを前記最小径部の直径の $10 \sim 50$ 倍に設定すれば、ラッパ部及び噴射ノズル部内において充分な混合作用及び加速作用が得られ、混合状態の良好な高速の液滴噴流からなる強力な洗浄媒体流が形成できる。

(7) 前記気体噴射口の上流側に粉粒体を供給するように構成すれば、粉粒体の剥離作用が加わり、特に頑固な汚れに対する洗浄作用を更に向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の特徴を示した要部構成図である。

【図2】 本発明に関する適用例を概略的に示した回路構成図である。

- 【図3】 本発明の実施例を示した縦断面図である。
- 【図4】 同実施例の要部を拡大して示した部分拡大断面図である。
- 【図5】 本発明の他の実施例を示した縦断面図である。
- 【図6】 同実施例の要部を拡大して示した部分拡大断面図である。
- 【図7】 同実施例の変形例を示した縦断面図である。
- 【図8】 本発明の他の実施例の要部を示した部分縦断面図である。
- 【図9】 同実施例の変形例の要部を示した部分縦断面図である。
- 【図10】 本発明の他の実施例を示した縦断面図である。
- 【図11】 同実施例の要部を拡大して示した部分拡大断面図である。
- 【図12】 同実施例の変形例を示した縦断面図である。

【符号の説明】

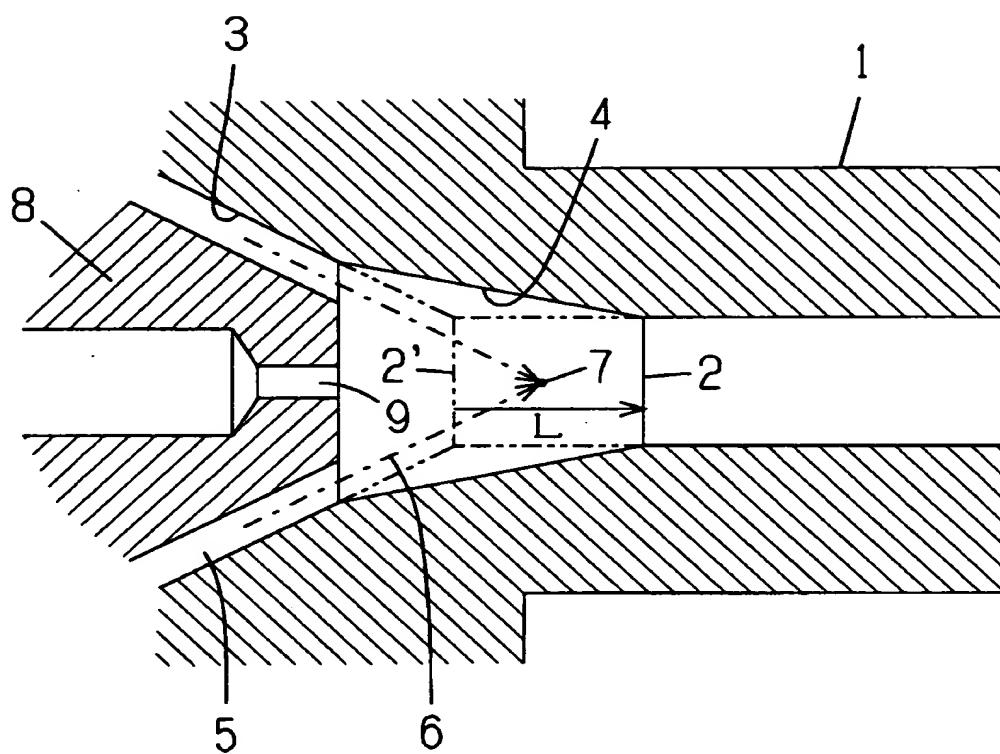
1 …噴射ノズル部、 2 …最小径部、 3, 4 …傾斜部、 5 …気体噴射口、 6 …気體の噴射線、 7 …焦点、 8 …洗浄液噴射部、 9 …噴射口、 10 …洗浄ノズル、 11 …圧力氣体の流通路、 12 …コンプレッサ、 13 …洗浄液供給部、 14 …水タンク、 15 …ポンプ、 16 …粉粒体の貯留タンク、 17 …送出し装置、 18 …水タンク、 19 …ポンプ、 20 …バルブ、 21 …筒状本体部、 22 …氣体導入部、 23 …噴射ノズル部、 24 …第1ノズル部材、 25 …第2ノズル部材、 26 ~ 28 …テーパ部、 29 …洗浄液噴射部、 30 …テーパ部、 31 …気体噴射口、 32 …流通路、 33 …最小径部、 34 …貯留空間、 35 …流通路、 36 …洗浄液噴射口、 37 …間隙部、 38 …ガイド面、 39 …洗浄液導入部、 40 …テーパ部、 41 …洗浄ノズル、 42, 43 …テーパ部、 44 …噴射ノズル部、 45 …洗浄液噴射部、 46 …テーパ部、 47 …気体噴射口、 48 …流通路、 49 …最小径部、 50 …テーパ部、 51 …洗浄ノズル、 52 …噴射ノズル部、 53 …最小径部、 54 …流通路、 55 …直管状部、 56 …洗浄ノズル、 57 …噴射ノズル部、 58, 59 …テーパ部、 60 …最小径部、 61 …テーパ部、 62 …洗浄液噴射部、 63 …テーパ部、 64 …気体噴射口、 65 …洗浄ノズル、 66 …噴射ノズル部、 67 …最小径部、 68 …直管状部、 69 …洗浄ノズル、 70 …噴射ノズル部、 71 …曲面部、 72 …最小径部、 73 …テーパ部、 74 …洗浄液噴射部、 75, 76 …テーパ部、 77 …気体噴射口、 78 …洗浄ノズル、 79 …噴射ノズル部、 80 …最

特2000-199749

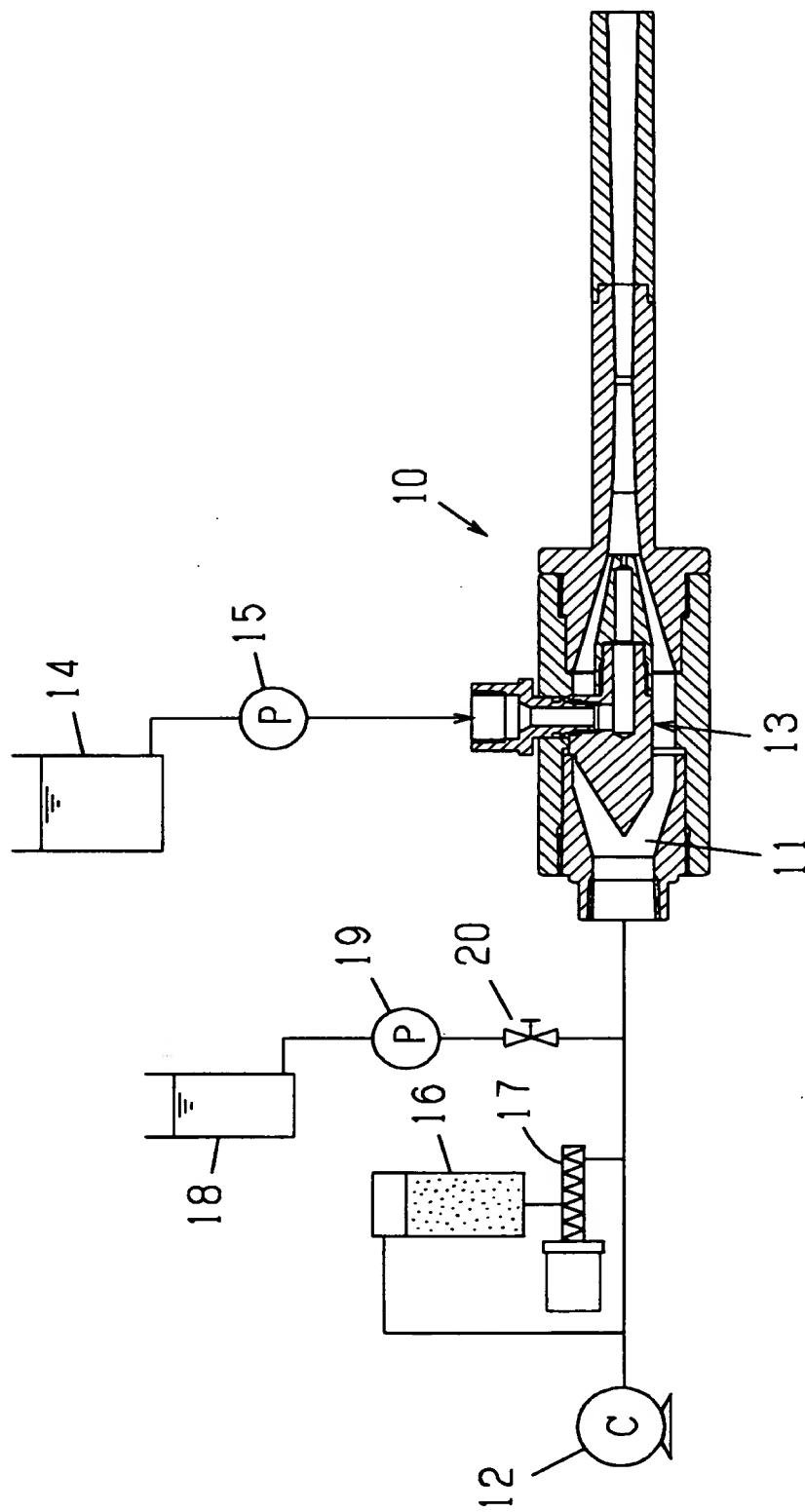
小径部、81…直管状部

【書類名】 図面

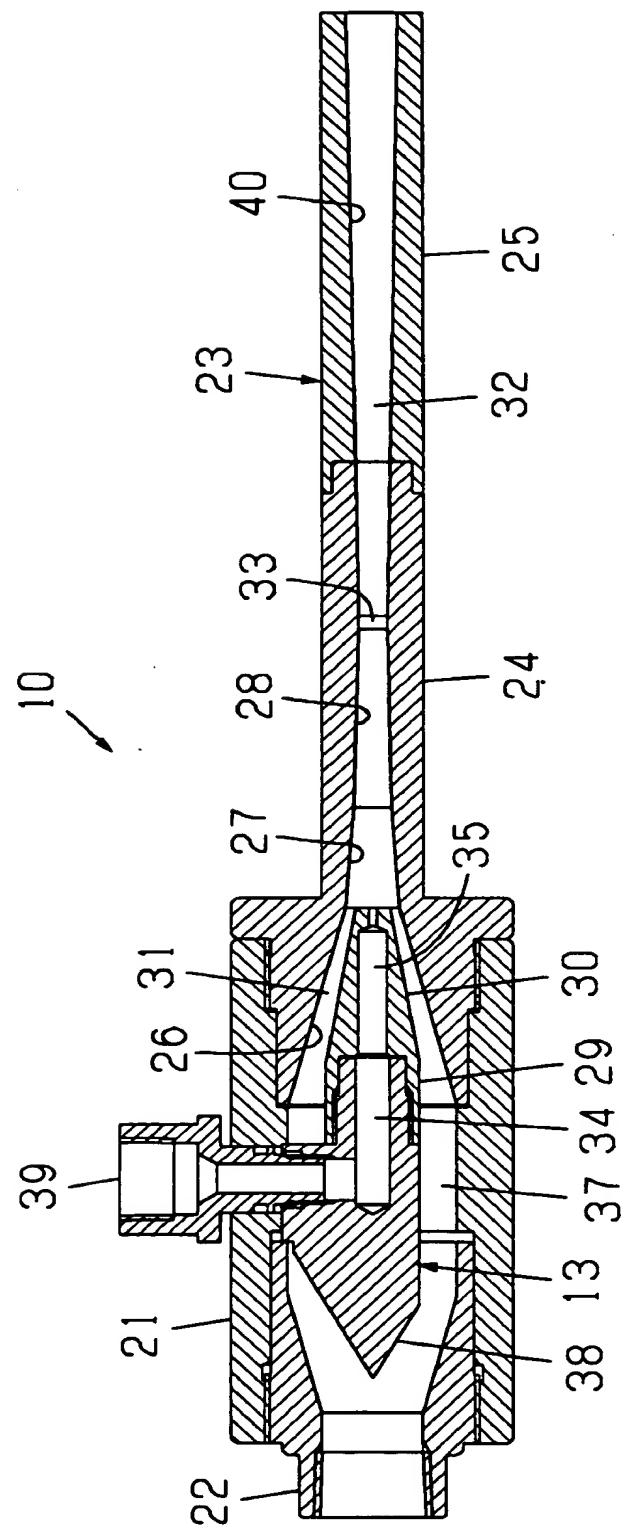
【図1】



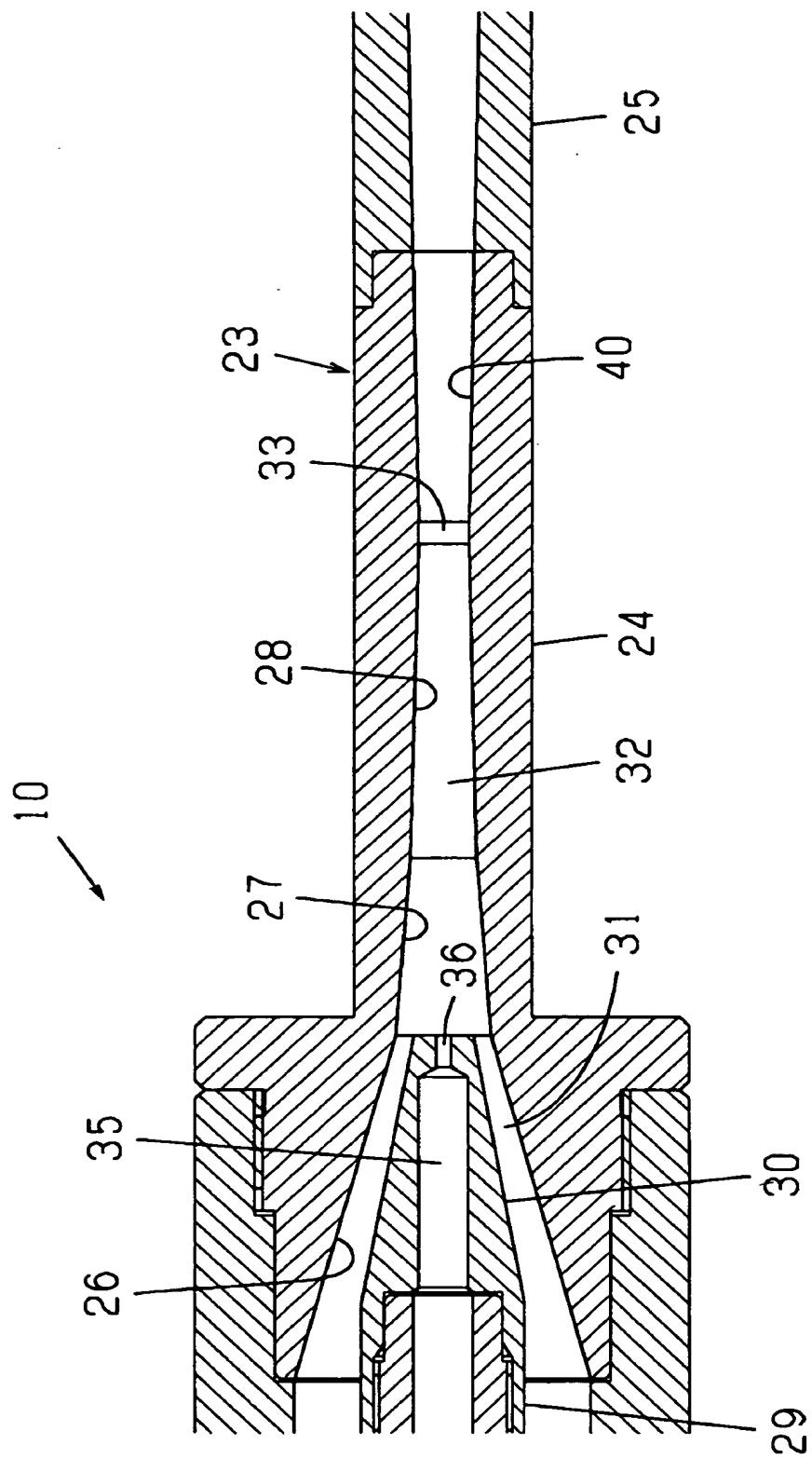
【図2】



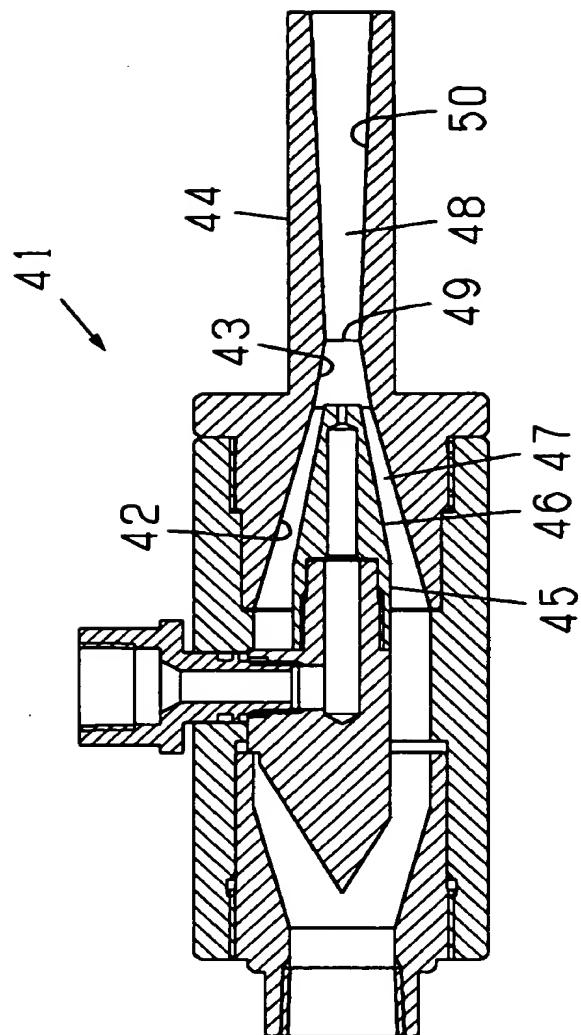
【図3】



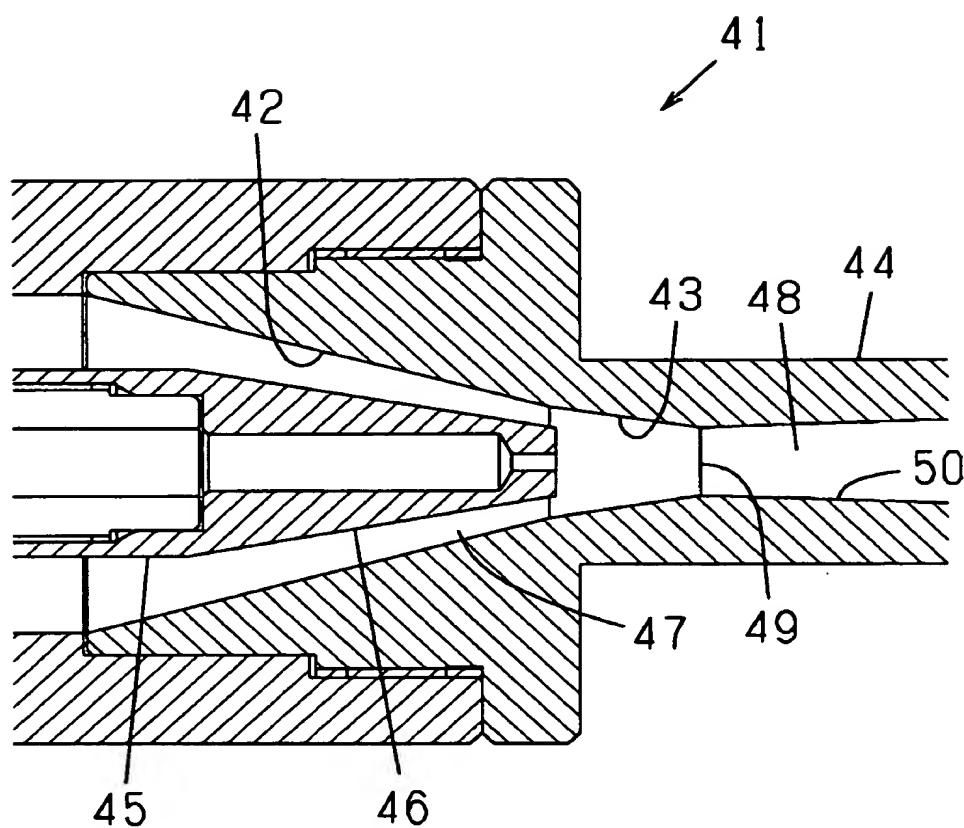
【図4】



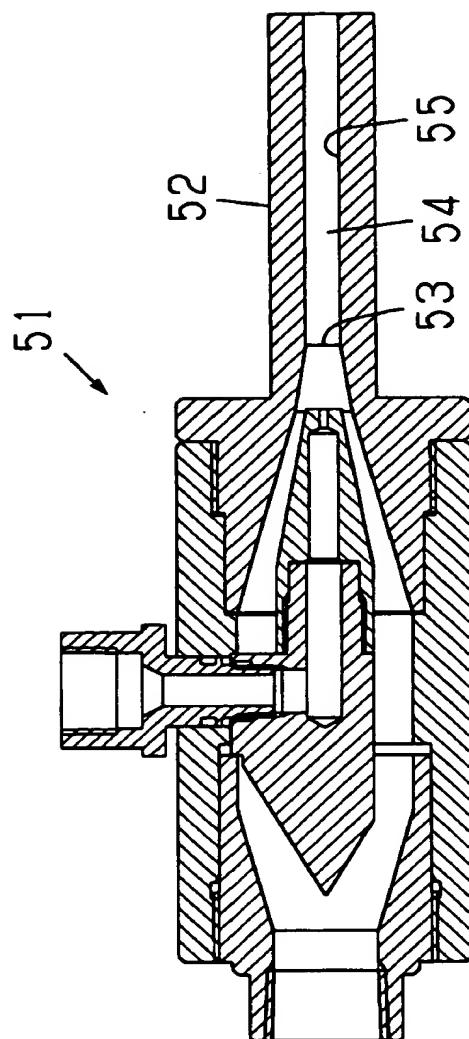
【図5】



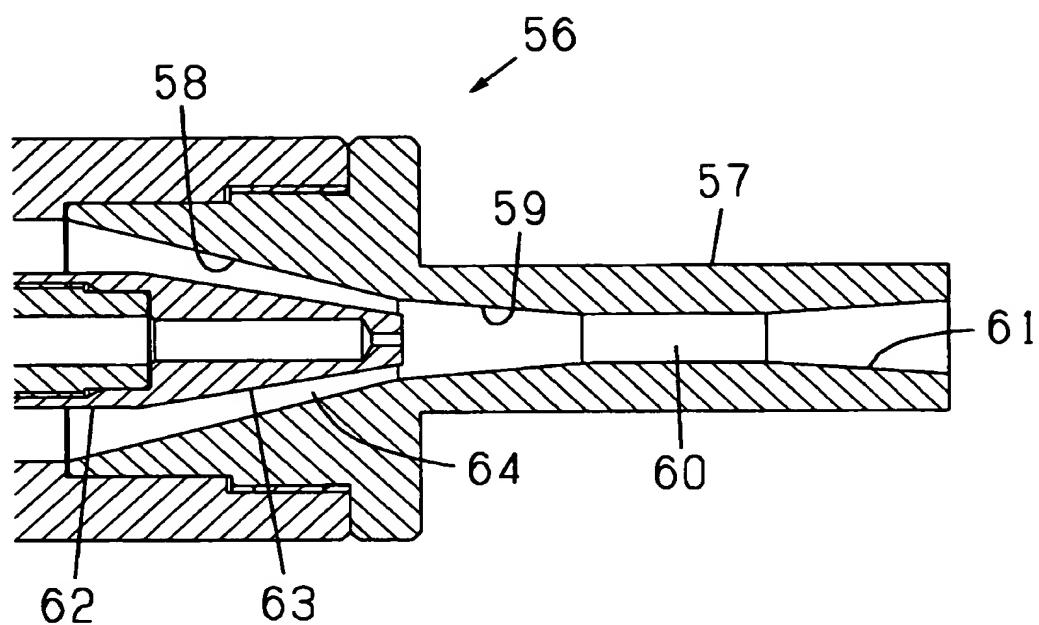
【図6】



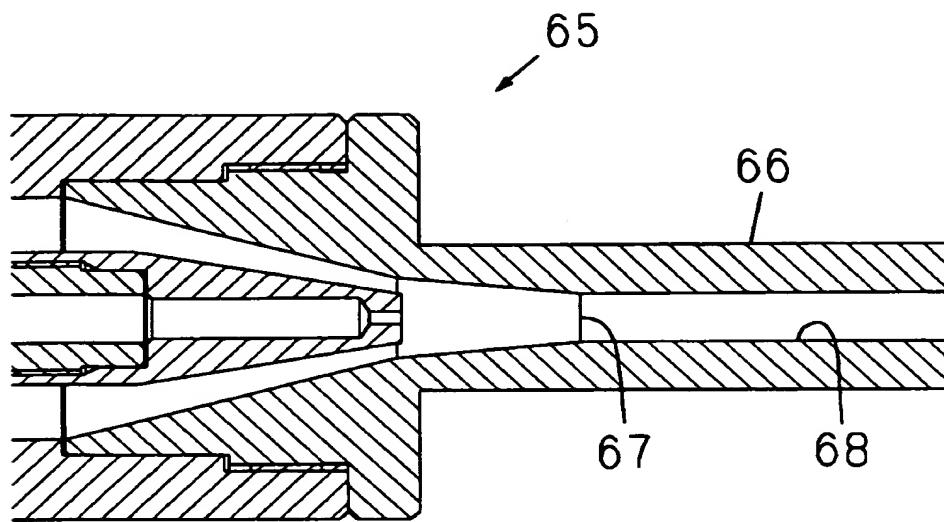
【図7】



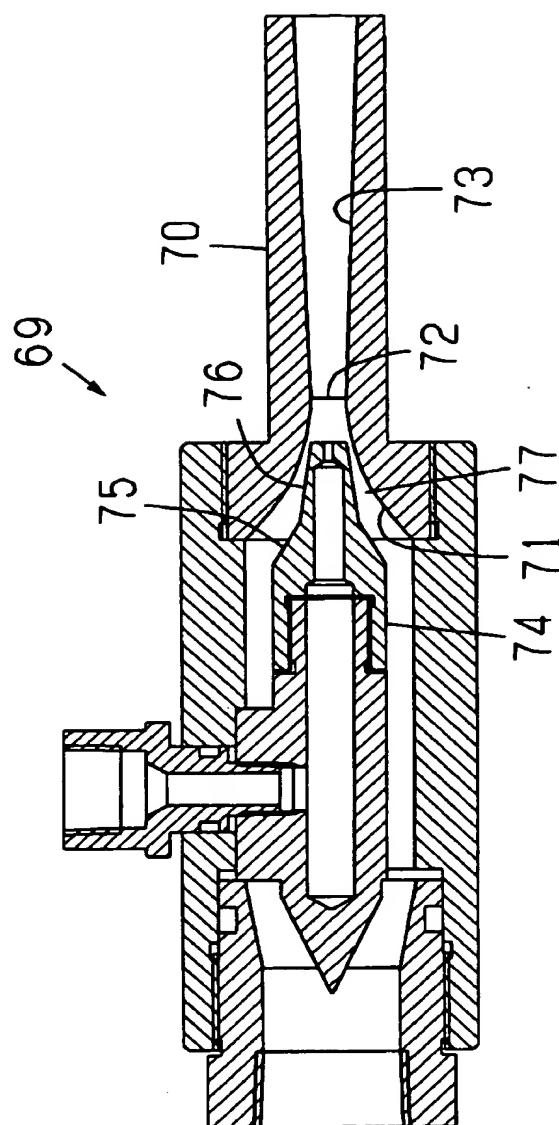
【図8】



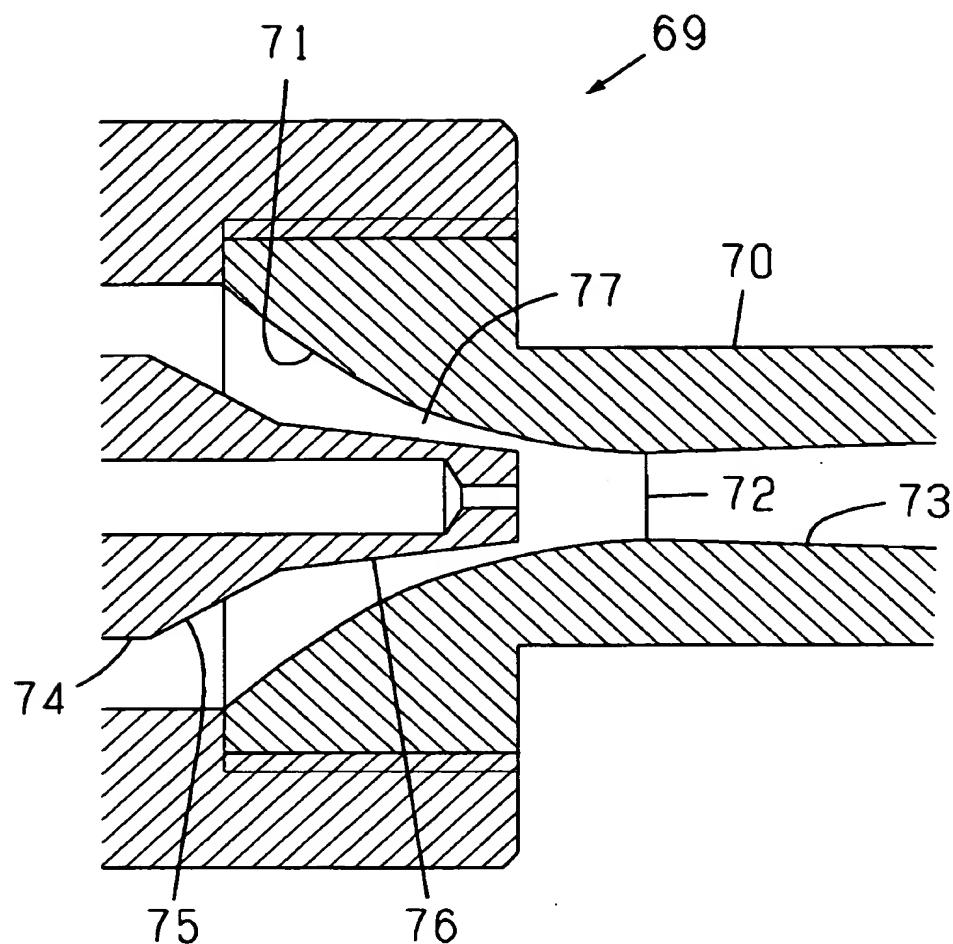
【図9】



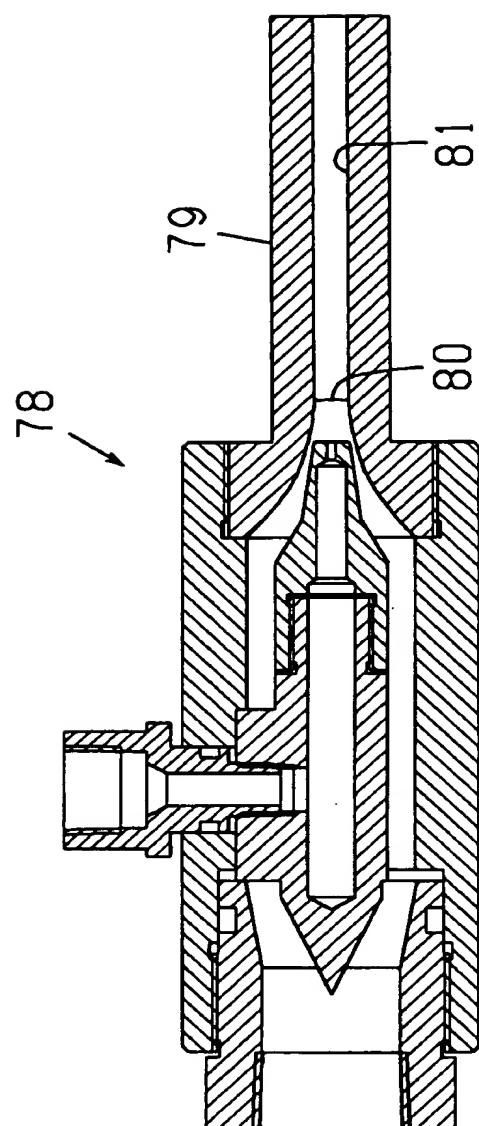
【図10】



【図11】



【図12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 圧力気体を用いて気体流の有するエネルギーを効率よく液滴に移乗させることにより、噴射ノズル部の最小径部の手前に形成されるラッパ部における気体と洗浄液の混合作用を促進して、噴射ノズル部から高速噴射される液滴の均一性を改善する。

【解決手段】 噴射ノズル部1の最小径部2の手前に多段階の傾斜部3、4からなるラッパ部を形成し、その傾斜部3に沿わせてラッパ部の途中に開口するよう気体噴射口5を形成するとともに、該気体噴射口5と最小径部2との間に噴射ノズル部1の軸線に対する傾斜角が気体噴射口5の噴射角より小さい傾斜部4を介在させ、かつ気体噴射口5の内方に洗浄液の噴射口9を形成して、それらの噴射口を介して気体を洗浄液より高速で噴射することにより、洗浄液の液滴化を促進しながら加速する。多段階の傾斜部3、4の代りに曲面部を採用してもよい。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000253019]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住 所 石川県金沢市大豆田本町甲58番地

氏 名 濵谷工業株式会社